

第2章 戦略改定の基本的な考え方

1 戦略改定の基本的な考え方

現行戦略に基づく取組は、策定から経過期間が短いことなどの理由から、引き続き取組の推進が必要なものもあるが、概ね順調に進捗している。今後の取組の推進に向けては、「市民にわかりやすく伝え、生物多様性が身近なものであり、生物多様性との関わりを日常の暮らしの中で捉えてもらう」ことが重要な要素の一つである。

現行戦略の改定においても、現行戦略の枠組みを維持しつつ、取組を充実させることとし、期間については、現在改定作業を進めている「環境基本計画」と同じく令和12(2030)年度までの10年間とするべきである。

また、改定にあたっては、昨今の自然災害の激甚化などの状況変化も考慮することが重要である。生態系サービスと呼ばれる生態系から得ることができる恵みの中には、自然災害の防止や被害の軽減なども挙げられている。「グリーンインフラ推進戦略(令和元(2019)年7月 国土交通省)」では、グリーンインフラを構成する自然環境(緑地、植栽、樹木、河川、水辺、森林、農地等)は、生物の生息・生育の場の提供等とともに水の貯留・浸透による防災・減災など多様な機能を有するとされている。また、同推進戦略の中では、グリーンインフラの活用を推進すべき場面として「気候変動への対応」や「生態系ネットワークの形成」が挙げられており、グリーンインフラの考え方を生物多様性の分野においては取り入れていくことが重要である。また、環境省においても、「生態系を活用した防災・減災に関する考え方(平成28(2016)年2月)」が示されている。こういった取組については、短期間に出来るものではないが、今後の生物多様性の取組を検討していく上では、ハード・ソフト両面への自然環境の有効活用など、将来を見据えた取組を進めていく必要がある。

さらに、生き物の多くは川崎市域の自然環境のみでなく、近隣他都市の自然環境を活用しながら生息・生育していることから、近隣他都市との連携も重要である。近年、各自治体においても、生物多様性地域戦略が策定されてきていることから、その視点を追加していくことも重要である。

なお、次期国家戦略については、現時点では方向性が不透明な部分があることから、国の動向に留意することも重要である。



黒川よこみね特別緑地保全地区(麻生区はるひ野)

2 めざす方向

戦略の改定にあたり、「めざす方向」として、次の4つを位置づけることが重要である。

(1)	生物多様性を市民によりわかりやすく、取り組みやすく
(2)	現行戦略の枠組みを維持しつつ、戦略的な取組を位置づける
(3)	これまでの取組状況や課題に応じた取組の充実・強化
(4)	川崎市環境関連施策等との連携や国の動向等への留意

(1) 生物多様性を市民により分かりやすく、取り組みやすく

人と生き物の関わりへの理解を深めることは、生物多様性への市民の理解度の向上につながる。そのため、市民にとって、生物多様性の保全がどのように重要なのか、市民が出来る取組はどのようなものがあるのかなど、生物多様性を身近なものとして認識できるよう、市民にわかりやすく伝わるように取り組むとともに、すぐに出来る生物多様性に関する取組事例の紹介など、実践につながる取組を進めていく必要がある。取組にあたっては、生物多様性の認知度合いや世代、居住地域など、対象に応じて進める必要がある。また、市民に知っておいてほしい生物多様性に関する情報（例えば、市内の生き物や外来種など）についても、引き続き発信していくことが重要である。

(2) 現行戦略の枠組みを維持しつつ、戦略的な取組を位置づける

川崎市は、現行戦略に基づき、基本方針や施策別取組方針、生態系エリアの特徴を踏まえた取組を推進し、一定程度の成果を上げてきた。

一方で、策定から経過期間が短いなどの理由から、引き続き取組の推進が必要なものもあることから、現行戦略の枠組みを維持し、これまでの取組状況や改定の基本的な方向等を踏まえ、生物多様性の保全の取組を位置づけていくことが重要である。また、生態系エリアの取組状況に目を向けると、土地利用の状況などにより生物多様性に関連する取組についてエリアごとに特徴があることから、その特徴を踏まえるとともに、市内河川の流域に着目した取組についても検討し、取組を進めることが重要である。

さらに、将来ビジョンの実現に向けて、現行のリーディング・プロジェクトを着実に進めるとともに、川崎市の生物多様性に関する取組を充実させ、戦略的に進めるための取組を位置づけるべきである。

(3) これまでの取組状況や課題に応じた取組の充実・強化

これまでに、学校等と連携して実施した生き物情報の募集や、「かわさき生き物マップ」を活用した生き物情報募集には多くの情報が寄せられ、また集まった情報を活用した企画展には多くの市民が来場するなど、生き物や自然への関心は高まってきている実感がある。一方で、「生物多様性」という言葉の認知度はあまり高くなく、生き物や自然への関心の高まりと生物多様性への理解とのリンクが弱いことが示唆されていることから『人と生き物のつながり』を強めるため、多くの人が生物多様性を意識し、人と生き物との関わりについてさらに理解を深める必要がある。

また、保全対象としているまとまりのある樹林地等については、保全施策等に取り組んできたが、一部においては保全施策が未実施の場所もあり、また生態系ネットワーク（エコロジカルネットワ

ーク)の形成についても、市域全体に広げていくには、期間を要するものである。都市において生物多様性を確保し、『生き物のつながり』を強めるためには、「緑の基本計画」にあるように、まとまりのある緑において生き物の生息・生育拠点としての質を高めていくとともに緑と水のネットワークを拡充していく必要がある。

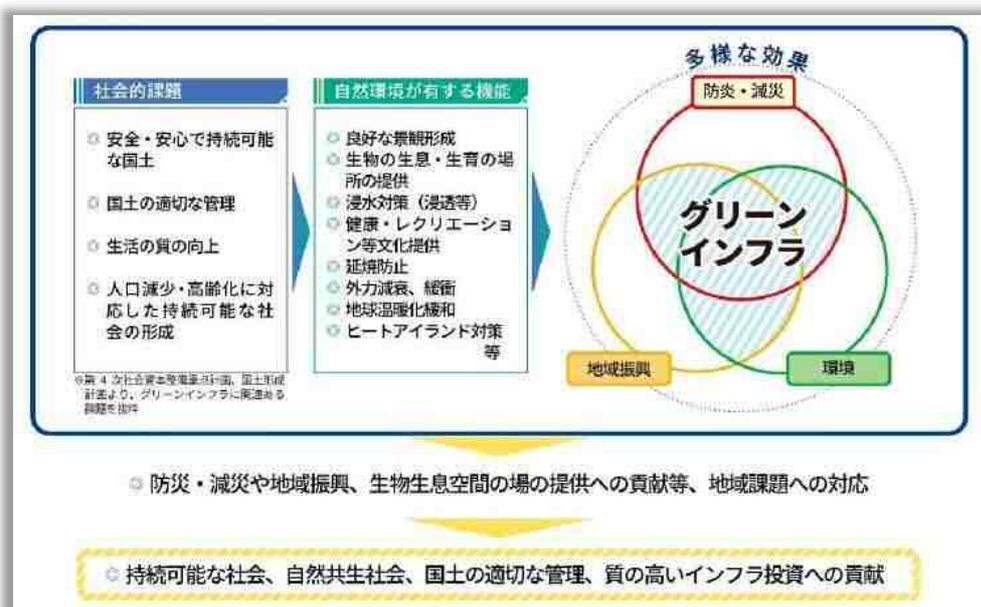
一方で、生き物の多くは市域の自然環境だけでなく周辺地域の自然環境も活用することから、近隣他都市との連携も重要である。

さらに、様々な緑の場で活動する多くの主体の活動を支え、継続的な活動となるよう人材を育成・支援し、緑に関する活動者の育成や技術・意識等を高めていくことも重要である。

「かわさき生き物マップ」の運用や生き物調査の実施により、様々な生き物情報を蓄積するとともに発信しているが、『情報のつながり』を強めるため、情報収集の継続と併せて、わかりやすく、効果的に発信することや生物多様性に関する情報の拠点と連携することが必要である。

(4) 川崎市環境関連施策等との連携や国の動向等への留意

川崎市の環境行政を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画である「環境基本計画」や、「緑の基本計画」及び「地球温暖化対策推進基本計画」をはじめとする、生物多様性の保全に関連する主な計画(P.12 参照)と連携していくことが重要であり、また、国の動向にも留意する必要がある。



グリーンインフラの考え方(国土交通省HPより)

3 改定の柱

戦略改定の基本的な考え方やめざす方向を踏まえた、改定の柱は次のとおりである。

(1) 将来ビジョンの更新

現行戦略の将来ビジョンについては、3つの基本方針における戦略でめざす将来の姿を設定し、その実現した姿として、それぞれの基本方針ごとの生物多様性に関する将来ビジョンを図に示している。さらに、総合的に推進していくことを表現するために、3つの図を重ね合わせ、多くの主体が将来の姿を共有できるようなイメージを交えた、戦略でめざす将来ビジョン図を示している。この将来の姿及び将来ビジョンについて、これまでの取組状況・生態系エリアの特徴を踏まえるとともに、改定された「緑の基本計画」との整合を図るなど、更新することが必要である。なお、「緑の基本計画」の将来像において、計画期間にとらわれず、長期的な視点から川崎市の緑の達成すべき姿を示していることから、新たな戦略における将来ビジョンについても、同様に計画期間にとらわれず長期的な視点をもって示すことが重要である。

これまでの取組状況や生態系エリアの特徴などを地図上に表示したこと等により、市内河川の流域において、それぞれ特徴があることがわかってきたことから、将来ビジョンの更新にあたっては、特に「河川と樹林地や農地とのつながり」に着目して、「生き物の生息・生育の拠点となる場所（拠点（コア）」と「拠点（コア）と回廊（コリドー）のつなぎ目である結節点」を流域ごとに位置づけることでより効果的な取組につなげていくべきである。さらに、緑と水の基盤の一つとして、地区内の緑化を効果的に推進するため「緑の基本計画」に基づき定められている「緑化推進重点地区（マトリクス）」を示すことで、地域の特性を活かした取組により緑と水のネットワークの形成につなげていくべきである。流域ごとの取りまとめについては、実際の河川流域にとらわれず、川崎市の地域特性や生態系エリアの特徴を踏まえるなど、生物多様性の視点をもって整理することが望ましい。

また、生き物の多くは川崎市域のみでなく、近隣他都市の自然環境を活用しながら生息・生育していることから、多摩丘陵・多摩川崖線や、多摩川や鶴見川、市域を跨ぐ流域などによる近隣他都市とのつながりを示すことが重要である。

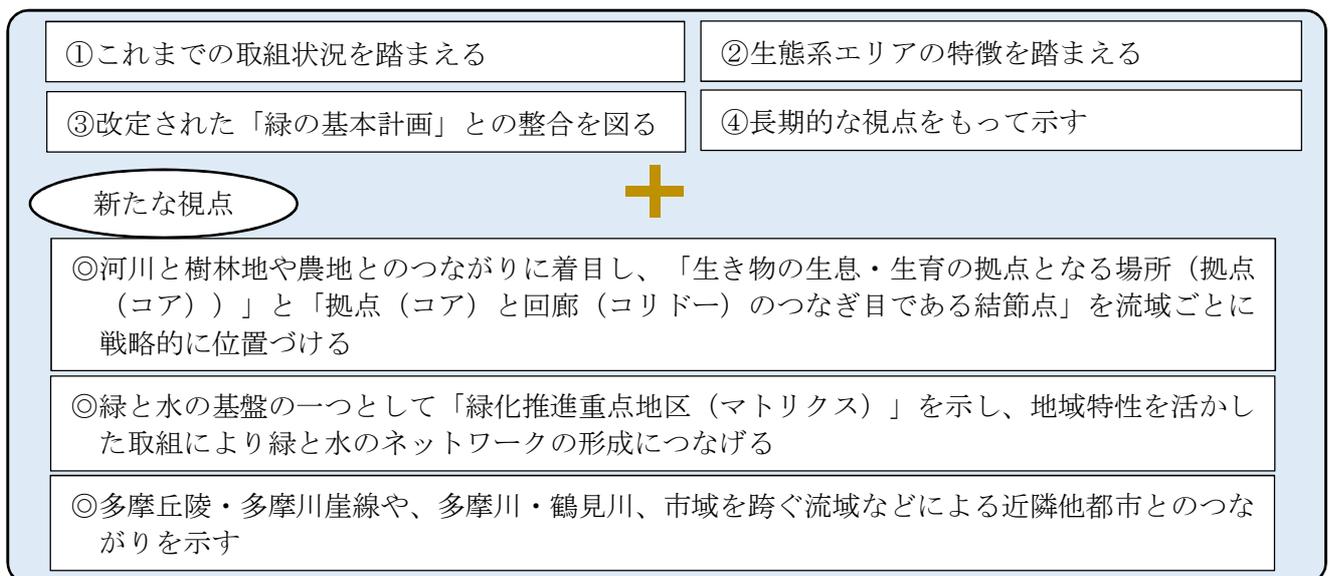


図 2-1 将来ビジョンの更新について

(2) リーディング・プロジェクトの充実

ア 戦略的な取組の設定

川崎市の生物多様性に関する取組を進めるため、これまでの取組状況等から明らかとなってきた生物多様性に関する地域特性等を踏まえつつ、次のような視点で戦略的に取り組んでいくことが必要である。

戦略的な取組① “生物多様性への配慮意識の更なる浸透”
生物多様性の認知度については、あまり高くない状況にあることから、市民や事業者にとって、わかりやすい、取り組みやすい事例紹介などを通して、生物多様性が身近なものであることを知ってもらえるような取組を進める。
戦略的な取組② “生態系エリアや流域の特徴を踏まえた生物多様性の拠点(コア)・回廊(コリドー)・緑化推進重点地区(マトリクス)を活かしたエコロジカルネットワークの形成”
市内河川の流域のある生態系エリアについては、それぞれ生き物の「生息・生育拠点(コア)」や拠点(コア)と回廊(コリドー)のつなぎ目である「結節点」に特徴があることから、その特徴を踏まえ、生物多様性に配慮した保全や管理などの取組を進める。 市街地や臨海部など自然的環境の分布が少ないエリアについては、緑化推進重点地区(マトリクス)を活かしながら、公園や緑道などにおいて、生物多様性に配慮した保全や管理などの取組を進める。
戦略的な取組③ “地域資源を活用するなど情報発信の充実”
川崎市には、生物多様性に関する情報拠点多く存在していることから、こうした地域資源を活用し、蓄積してきた生物多様性の情報などの効果的な発信を進める。

イ 現行のリーディング・プロジェクトの充実

現行のリーディング・プロジェクトについても、充実させていくべきである。

基本方針Ⅰ “取組を充実させることで人と生き物のつながりを強める”
基本方針Ⅰ「人と生き物をつなげる」では、生物多様性への認識や環境への配慮意識を「広める」、人材を「育む」を方針としており、様々な機会を捉えて生物多様性への認識や環境配慮意識を広めるなどの取組を充実させることでめざす方向の実現につなげていく。
基本方針Ⅱ “関連計画等との整合を図り、生き物のつながりを強める”
基本方針Ⅱ「生き物をつなげる」では、生き物の生息・生育環境を「守る」、広域的な視点で「つなぐ」、生息・生育環境を「創る」を方針としており、主に「緑の基本計画」に基づく取組である。「生物多様性の保全に関して関連計画と整合を図りながら効果的に取組を推進していく」という戦略の位置づけを踏まえて、これらの計画等の内容を反映させ、生き物の生息・生育拠点であるまとまりのある緑の質を高め、生息・生育環境をつなぐ役割を持つ緑と水のネットワークの形成を拡充することで、めざす方向の実現につなげていく。
基本方針Ⅲ “取組を充実させることで情報のつながりを強める”
基本方針Ⅲ「情報をつなげる」では、情報を「集める」・「伝える」を方針としており、情報の適切な収集や集めた生き物情報などを効果的に発信する取組を充実させることで、めざす方向の実現につなげていく。

第3章 戦略の基本的事項

「第2章 戦略改定の基本的な考え方」にあるように、戦略の改定にあたっては、現行戦略の枠組みを維持することとしていることから、基本的事項である「戦略の基本的な考え方」、「戦略の位置づけ」、「戦略の期間と対象区域」、「基本理念と基本方針」は現行戦略と同様、次のとおりとするべきである。

1 戦略の基本的な考え方

戦略の基本的な考え方と3つの視点

- 生物多様性に配慮した環境づくりによって生き物がつながること
 - ・人と生き物との関わり方の調和を図っていくこと
 - ・地域本来の自然環境を保全、再生して、多様な生き物が生息・生育できるようにしていくこと
 - ・様々な生物多様性に関する情報をつないで利活用していくこと

2 戦略の位置づけ

(1) 他の計画との関係

川崎市における生物多様性の保全の視点と基本的な考え方を表すとともに、取組の方向性と推進策（リーディング・プロジェクト、基本施策、生態系エリアごとの取組の方向性）を示すこととし、具体的な取組の実施においては、関連する計画において各計画の目標等と整合を図りつつ戦略の考え方を取り入れて実施する。

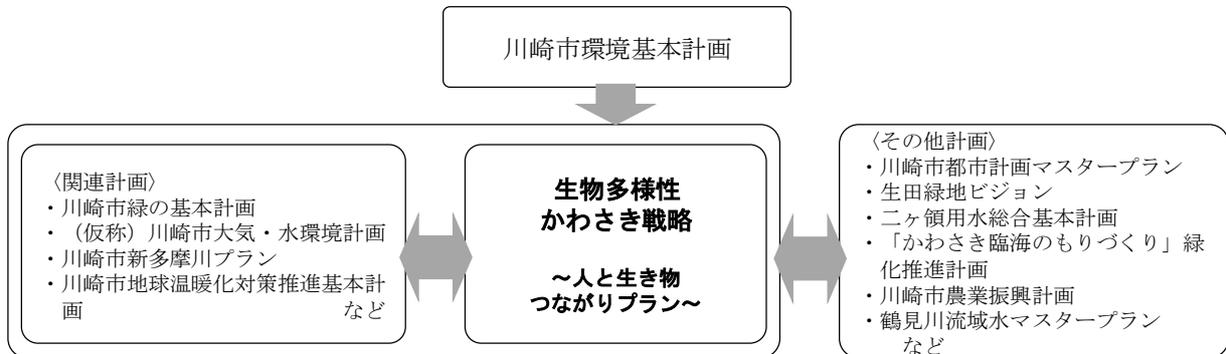


図 3-1 生物多様性かわさき戦略の位置づけ

(2) 戦略の特徴

川崎市の地域特性を踏まえ、人と生き物との“つながり”に主眼をおいた生物多様性地域戦略

(3) 戦略でめざすもの

この戦略において主としてめざすものは次のとおりである。

- ・多様な主体との連携による生物多様性配慮の推進
- ・地域環境の質的な向上
- ・市域全体でのエコロジカルネットワークの構築
- ・保全と利活用のバランスに立った都市と自然との共生

3 戦略の期間と対象区域

- 戦略の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までとする
- 戦略の対象とする区域の範囲は川崎市全域とする

なお、計画期間内であっても、国の生物多様性の取組等の動向や社会情勢変化等を踏まえ、必要に応じ戦略を見直していくことが望ましい。

4 基本理念と基本方針

川崎市が生物多様性の保全に取り組む背景や地域特性を踏まえて、戦略の基本理念と、具体的な取組を進めていくうえでの基本方針は次のとおりとすることが望ましい。

(1) 基本理念

**「多様な緑と水 人や生き物がつながり 都市と自然が共生するまち
かわさき」**

川崎市は、多摩・三浦丘陵や多摩川、多摩川に沿って形成された多摩川低地等の緑や水等の自然環境を背景に発展してきた。日本の高度経済成長期とともに大都市として成長し、都市化の進んだ川崎市においても、多様な自然環境や生き物、人間活動によって形成された市特有の生物多様性によって、地域文化を育み、生活にうるおいを与え、食やレクリエーションなど、多くの恵みがもたらされている。引き続き、川崎市が発展していくためには、これまでと同様に、生物多様性を地域の財産として捉え、多様な生き物に配慮して生息・生育環境を保全・再生・創出するとともに、バランスよく利活用していく必要がある。

また、近年の自然災害の激甚化などの状況を踏まえ、安全・安心で持続可能なまちづくりに向けて、脱炭素化に向けた取組や、市域外の自然のめぐみを有効に活用していく資源循環の取組とともに、地域特性に応じた緑地保全・緑化の取組などにより、都市と自然が共生していくことが大切である。

そのためには、多様な自然や文化への関心や配慮意識を高めるとともに、実際に取り組むことで生物多様性への理解や配慮意識を広めることや、子どもたちの自然等への探求心や生物多様性保全の観点に立った活動を実践する人材を育むことが重要である。また、生き物の生息・生育拠点となる緑や水を守るとともに、生息・生育の中継点としてつなぐことや、まちなかに生息・生育の拠点を創ることが重要である。そして、生物多様性に関する様々な情報を集めるとともに、効果的な発信や多様な主体による取組につながるようわかりやすく伝えることが重要である。

さらに、「環境基本計画」における基本方針の一つである「力強くしなやかで持続可能な都市づくりに取り組む」においても、様々な自然の恵みは循環や再生を繰り返しながら、生命を支え続けており、私たちが人間らしくすこやかに暮らしていくためには、様々な環境資源への理解と共生が不可欠であるとしている。

こうしたことから、人と生き物とのつながりをさらに強化し、都市と自然が共生するまちをめざすとしている現行の基本理念は変更せず、取組を推進していくことが望ましい。

(2) 基本方針

基本方針についても、現行戦略と同様に次のように掲げることが望ましい。

基本方針Ⅰ 人と生き物をつなげる

生物多様性への配慮意識を**広め**、子どもたちの自然等への探求心や地域で活動する人材を**育む**ことで、人と生き物をつなげます



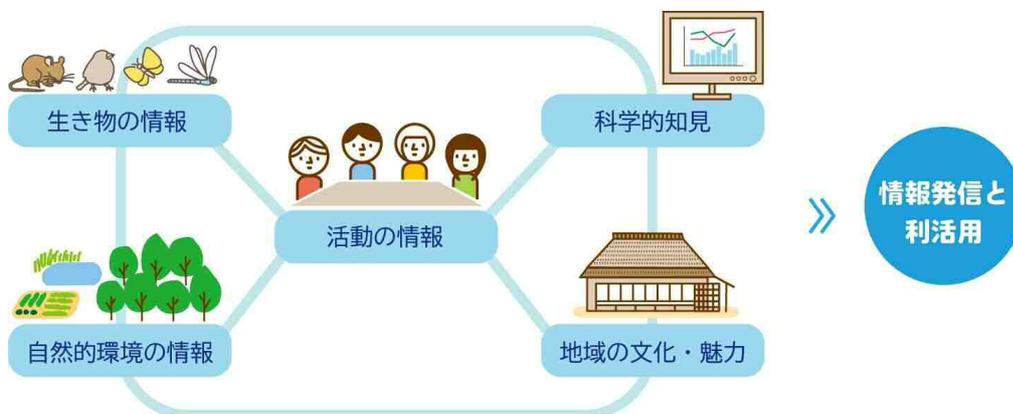
基本方針Ⅱ 生き物をつなげる

生き物の生息・生育環境となる拠点（コア）や回廊（コリドー）、緑化推進重点地区（マトリクス）等の自然環境を守り、つなげて質を高め、さらに創り出すことで、生き物をつなげます



基本方針Ⅲ 情報をつなげる

生物多様性の保全に関する様々な情報や知見を集めて、効果的に発信することで**伝え**、情報をつなげます



5 将来ビジョン

現行戦略策定後、様々な取組を推進しているが、人と生き物との関わりを深めることは、引き続き大切である。また、“生き物をつなげる”観点では、有機的な緑と水のネットワーク（エコロジカルネットワーク）が重要であり、その構築に向けて、生き物の生息・生育拠点の保全、拠点と拠点をつなぐ回廊（コリドー）を保全・整備していくとともに、拠点の少ないまちなかなどにおいて、公園や学校等の公共施設を中心に緑化や水辺整備等の推進により小拠点を創出していくことが重要である。そして、情報をつなげるとともに多様な主体による取組につなげるため、必要な情報の収集と発信が重要である。

現行戦略では、川崎市の生物多様性の保全を推進していくため、戦略でめざす将来ビジョンとして、3つの基本方針“人と生き物をつなげる”、“生き物をつなげる”、“情報をつなげる”における「めざす将来の姿」を設定し、その実現した姿として将来ビジョンを示していることから、これらを更新した将来ビジョンを示すことが重要である。

「基本方針Ⅰ 人と生き物をつなげる」の将来ビジョン

小学校や市民活動の場（緑の活動団体の活動拠点）、みどりの事業所などの場が、子どもたちの自然などへの探求心等を育む場、生物多様性を広める場や人材を育成する場となっていること等が戦略でめざす将来の姿であることから、これらの場所を更新し、示すことが必要である。

「基本方針Ⅱ 生き物をつなげる」の将来ビジョン

有機的な緑と水のネットワークが重要であり、その構築に向けて、生き物の生息・生育の拠点（コア）の保全、拠点と拠点をつなぐ回廊（コリドー）の保全・整備、重点的に緑化を推進する地区（緑化推進重点地区（マトリクス））における緑化の取組、まちなかの豊かな小拠点の整備等が戦略でめざす将来の姿であることから、市内河川の流域に着目し、緑の基本計画における「自然的環境の分布図」を元に、「川崎市公園・緑地等位置図（令和元年度版）」や「草地・農地※」などを地図に落とし込むことにより、流域ごとの特徴を踏まえたエコロジカルネットワークを示すことが必要である。

「基本方針Ⅲ 情報をつなげる」の将来ビジョン

情報拠点の充実と情報拠点を活用した情報収集発信が戦略でめざす将来の姿であることから、生物多様性に関する情報の拠点のうち、川崎市が管理又は関係する施設等の場所を更新し、示すことが必要である。

さらに、生き物の多くは近隣他都市の自然環境を活用しながら生息・生育していることから、多摩丘陵・多摩川崖線や、多摩川や鶴見川、市域を跨ぐ流域などによる近隣他都市とのつながりを示すことが必要である。

※樹林地、水面は、川崎市作成（平成 28（2016）年）の自然的環境分布図を、草地、農地は、国土交通省作成（平成 17（2005）年）の緑被分布図を基に図化を行った。国土交通省のデータは、農地については畑地と水田の区分が行われていないため、立地条件が異なることから、国土地理院の土地条件図（1/25000）に基づき、沖積低地に位置する農地（水田のポテンシャルを有する）とそれ以外の農地（畑・果樹園等）に区分し、生物多様性の観点から、立地特性を反映した「生態系エリア」の作成を行った。（資料提供：中央大学研究開発機構）

表 3-1 に「改定戦略でめざすかわさきらしい将来の姿」を示し、図 3-2～3-4 で 3 つの基本方針ごとの将来ビジョンの更新図を、図 3-5 で近隣他都市とのつながりの図を示し、さらに、図 3-6 で基本方針ごとの 3 つの図を重ね合わせ、近隣他都市とのつながりを加えた戦略でめざす将来ビジョン図を示すことから、参考とされたい。

また、「河川と樹林地や農地とのつながり」に着目して、「生き物の生息・生育の拠点となる場所（拠点（コア））」と「拠点と回廊（コリドー）のつなぎ目である結節点」を市内河川の流域ごとに取りまとめた内容については、「第 4 章 5 生態系エリアごとの取組の方向性」に示している。

表 3-1 改定戦略でめざすかわさきらしい将来の姿

基本方針	戦略でめざす将来の姿
I 人と生き物をつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したライフスタイルが浸透し、日常的に実践されている。 ・生物多様性を広める場や人材を育む場となる市民、事業者等の活動の場が増えている。 ・小学校等で自然や生き物への探求心を育むような環境学習が推進されている。 ・生物多様性に関する理解が深まり、多くの市民・事業者の間で普及している。 ・生物多様性の観点に立った活動を実践する人材育成が推進されている。 ・身近な自然と関わる機会・生き物とふれあう機会が増加している。
II 生き物をつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の生息・生育の拠点となる緑地や農地、公園等が保全されるとともに、生物多様性への配慮意識の浸透により、生き物の生息・生育環境としての質が向上している。 ・拠点をつなぐ回廊（コリドー）の保全・整備が進められるなど、生物多様性に配慮した有機的な緑と水のネットワーク（エコロジカルネットワーク）の構築に向けた取組が進んでいる。 ・公共施設等を中心とした緑化や水辺整備等や、家庭での緑化の取組が、まちなかの小さな拠点として創出されている。
III 情報をつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する情報の基盤づくりが進み、情報の収集発信がされている。 ・環境や生き物、文化など様々な分野の施設等において、情報や地域の市民活動や事業者等の取組、ノウハウの収集蓄積、発信等の機能が充実し、ネットワーク化して情報の拠点として利活用されている。 ・大学等と連携し、生物多様性に関する新たな知見づくりや研究が進んでいる。 ・情報の拠点が、人と人、人と生き物をつなぐ拠点となり、生物多様性に関する情報交流の場として機能している。 ・情報の拠点では、立地する周辺地域の関連性の高い情報が蓄積されるとともに、電子的情報とともに、地域の既往資料や生き物の標本等、電子化されない情報が適切に保管され、可能な限り利活用されている。

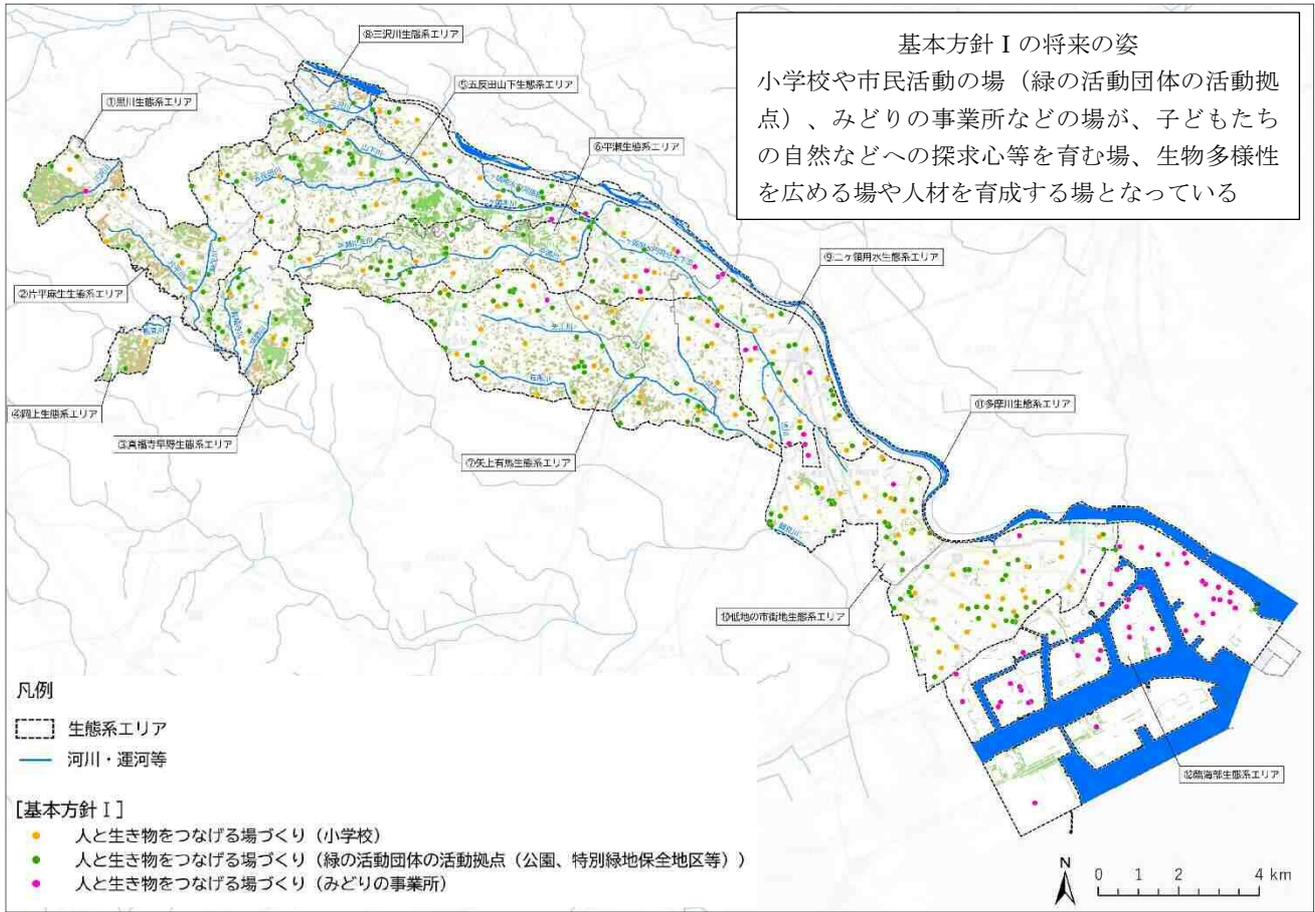


図 3-2 「基本方針Ⅰ 人と生き物をつなげる」将来ビジョンの更新図

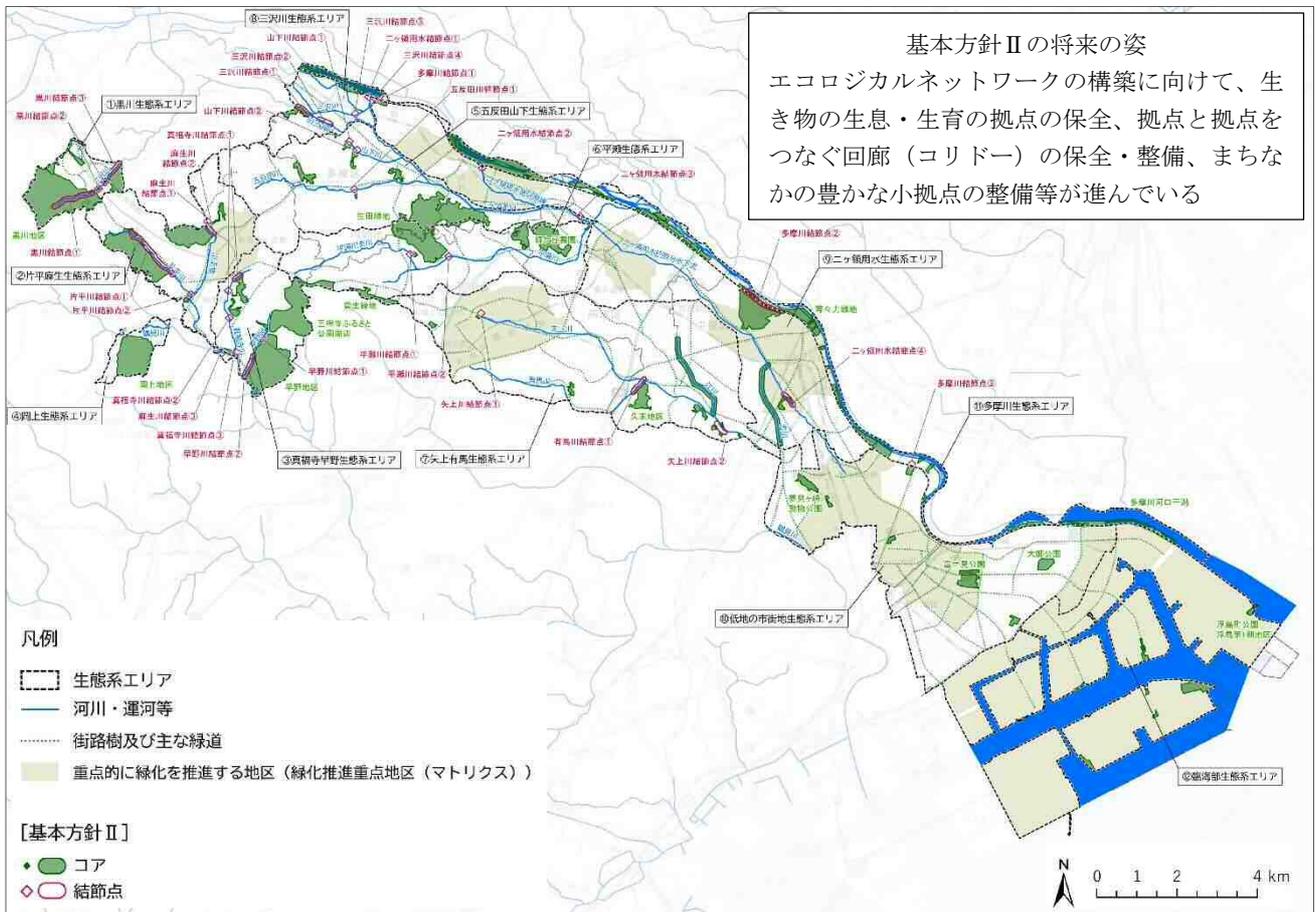


図 3-3 「基本方針Ⅱ 生き物をつなげる」将来ビジョンの更新図

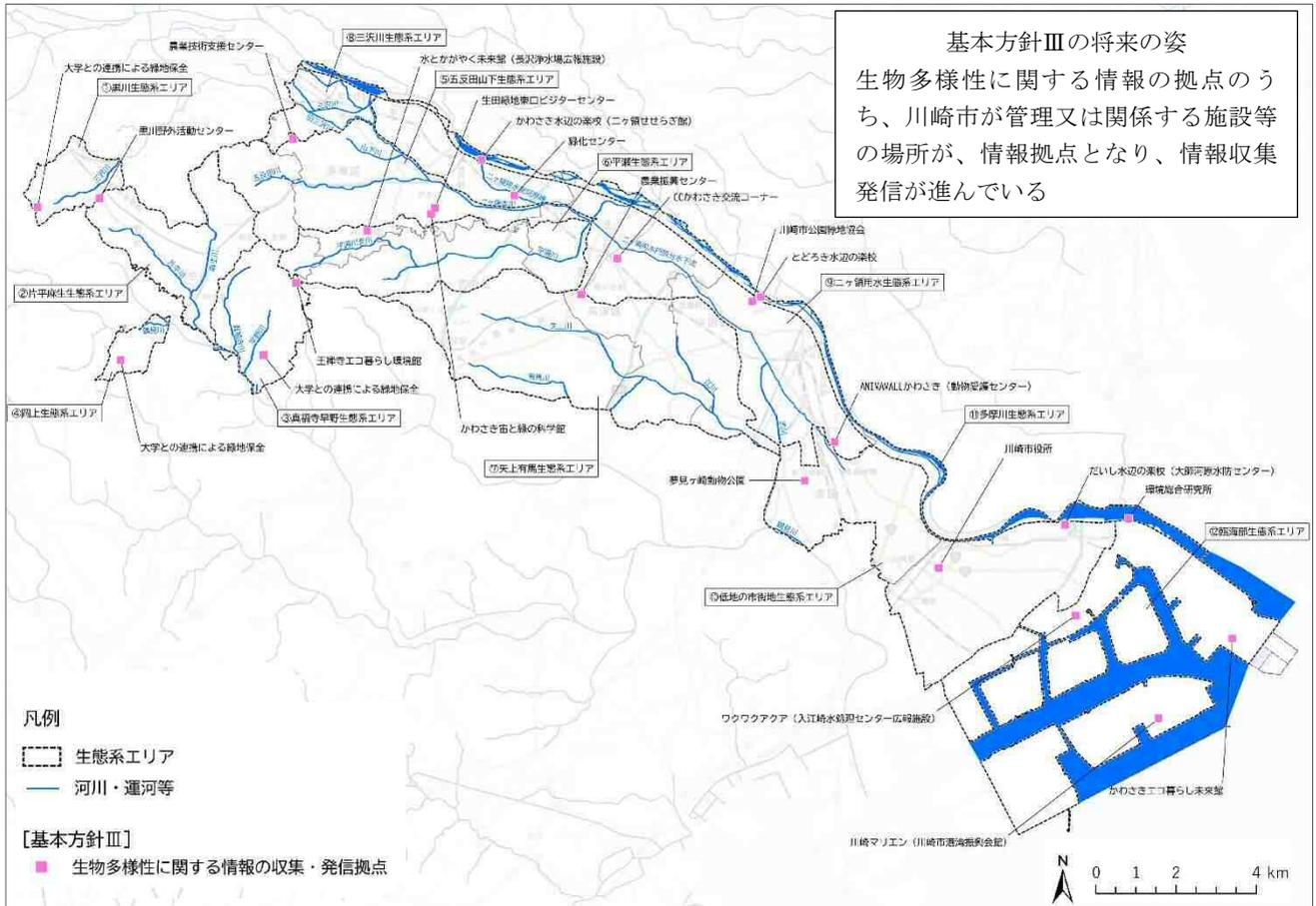


図 3-4 「基本方針Ⅲ 情報をつなげる」将来ビジョンの更新図

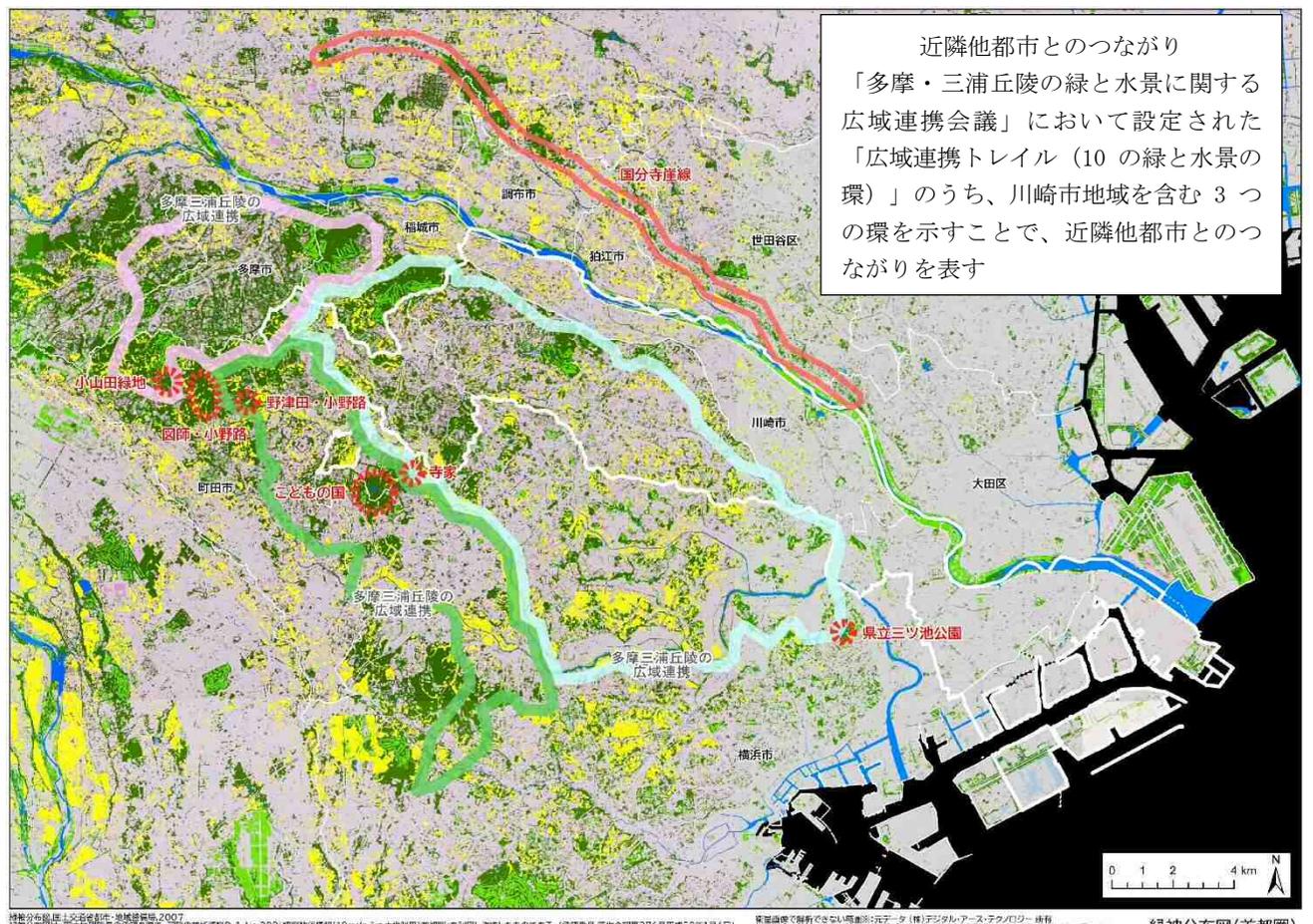


図 3-5 近隣他都市とのつながり

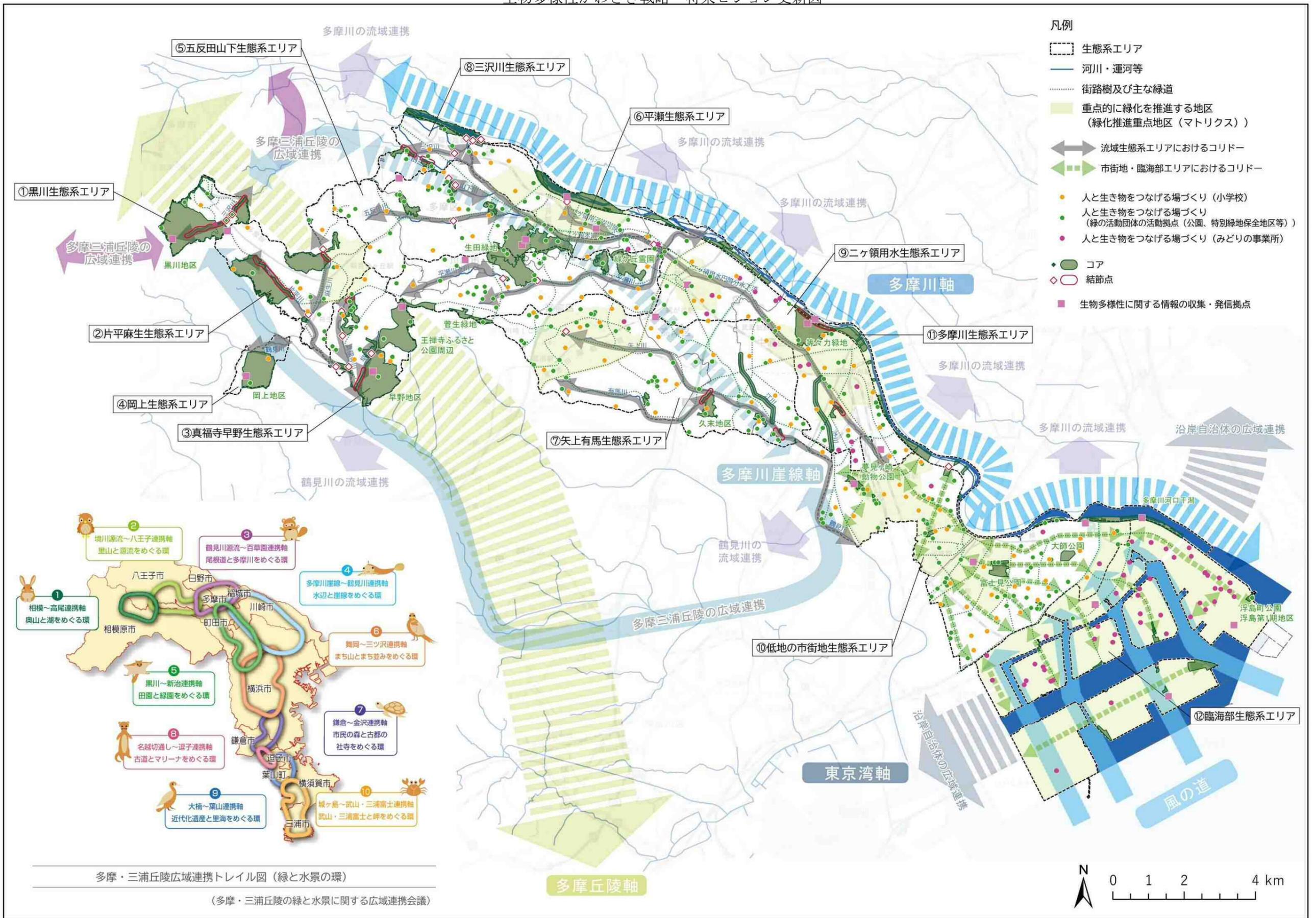


図 3-6 戦略でめざす将来ビジョンの更新図